

檜原村は東京都における唯一の村（島しょ地域除く）で、村の大半が秩父多摩甲斐国立公園エリアとなっている自然豊かな山村である。人口は昭和40年頃から減少、過疎化が進行し、村民のおよそ半数が高齢者という状況にある。そのような状況下、近年檜原村では観光施設やカフェ、キャンプ場等が開業している。本レポートでは、檜原村に新たに開業した施設の紹介や事業者等の声から、開業するに至った経緯や背景などをヒアリングを通じて紹介していきたい。

1. 檜原村の概要

- ◆ 檜原村は、都心から約50キロメートル離れた東京都の西に位置する村。
- ◆ 面積は105.41平方キロメートル。その93%が林野。周囲を急峻な山嶺に囲まれ平坦地が少ない。
- ◆ 人口は2024年3月1日現在で1,972人。一番多い時の人口は昭和22年の6,642人で、昭和40年頃から人口減少、過疎化が進み、高齢化率は53%（令和2年国勢調査）となっている。
- ◆ 特産品は「ジャガイモ」。急斜面に作られた畑「坂畑（さかっぱたけ）」は水はけがよく、美味しいジャガイモが育つ。
- ◆ 見どころは東京都で唯一「日本の滝百選」に選ばれた「ほっさわ 払沢の滝」をはじめ、いくつかの滝を見て歩く「滝めぐり」が観光の定番。ハイキングやキャンプ、マス釣り等、アウトドアを楽しむ観光客が多く訪れる。



払沢の滝
出所：檜原村観光協会HP

2. 檜原村で新たに開業した施設

檜原 森のおもちゃ美術館

(2021年2月オープン)

- ・館長、副館長とも檜原村出身者。
- ・村の豊かな森の恵みを生かした体験型美術館。
- ・村の風景をイメージした空間や木のおもちゃで遊べるスペース等がある。



古民家カフェ 晴ノ舎

(2022年4月オープン)

- ・代表は元檜原村地域おこし協力隊員。千葉から移住。
- ・登録有形文化財の旧高橋家住宅を活用し、地元の野菜を中心としたランチを提供する古民家カフェ。
- ・地元の工芸作家の作品等を取り扱うセレクトショップも併設。



ひのはらファクトリー

(2021年7月オープン)

- ・代表取締役は都内から移住。
- ・じゃがいも焼酎の製造工場。焼酎の製造工程なども見学可能であるほか、直売場・カフェ等も併設。
- ・じゃがいもを使ったアイスや檜原産のヒノキを使用した精油等も販売。



東京×山リバーサイドカフェ

(2021年7月オープン)

- ・代表取締役は品川区出身者。現在は檜原村に住み票を移し、檜原村を軸足として都内との二拠点生活。
- ・厳選された自家焙煎豆と檜原村のおいしい水で淹れた珈琲を楽しめるカフェ。
- ・リバーサイドのウッドデッキからは、南秋川の水の流れと、檜原村の自然が感じられる。



出所：檜原村観光協会HP

3. 事業者等の声

檜原 森のおもちゃ美術館

◆ 開業の背景等

- ・ 檜原村は面積の93%が森林ということもあり、木材を建築用資材として活用してきたが、平成30年に「檜原村トイ・ビレッジ構想」を掲げ、地域資源である森林を最大限に活かした木材・木育の推進事業を開始。
- ・ その構想の柱（多世代交流型木育推進事業）として、当館や隣接するおもちゃ工房が設立された。

◆ 開業から足元までの状況

- ・ コロナ禍での開業であったが、様々なメディアに取り上げられたこともあり、1年目の来館者数は順調であった。その後は客足が減った時期もあったが、足元では前年を上回って推移している。昨年は年間約4万人が来館。
- ・ 土日はあきる野市や八王子市など近隣市に加え、埼玉県や神奈川県からも来館者が訪れている。

◆ 雇用について

- ・ 従業員の半数近くが村の人となっており、それ以外の者についても檜原村と関係のある者（結婚を機に村外に転居した者など）となっている。

◆ 檜原村の変化

- ・ 最近ではカフェやキャンプ施設などが増えてきており、おしゃれな施設によるInstagramなどのSNS投稿が契機となって、新たな観光客（若い世代）を呼び込んでいる側面もある。
- ・ 東京都以外の観光客やインバウンドの割合が増加してきている印象。



ひのはらファクトリー

◆ 開業の背景等

- ・ 開業前は、檜原村の企業誘致制度を利用して、檜原産のヒノキを使ったエッセンシャルオイルの製造・販売を行っていた。
- ・ 村の「じゃがいも焼酎（※）」作りの計画を知り、心を惹かれ「ひのはらファクトリー」の運営委託先に手を挙げた。
※2019年檜原村は国家戦略特区の焼酎特区として認められた。

◆ 開業から足元までの状況

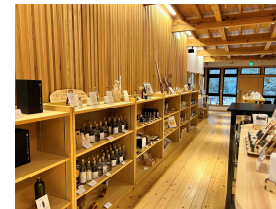
- ・ コロナ禍での開業であったが、来客数は足元まで順調に推移し、年間およそ1万人が訪れている。
- ・ エッセンシャルオイルやじゃがいも焼酎、ヒノキ製品などの商品を取り揃えており、売上も安定してきている。
- ・ 2024年2月 ニューヨークで開催されるインテリア、雑貨等の国際見本市に出展。

◆ 雇用について

- ・ 店長や調理スタッフに村内の人を雇用している。今後は村内のフルタイムで働けない人に向けて作業を創出し、短時間でも働けるようにしていきたい。

◆ 檜原村の変化

- ・ 新たにカフェ等が開業されることで、人の移動が発生し、地域の活性化に繋がっていると感じている。
- ・ 欧米ではハイキングがブームとなっており、村にもハイキングを目的としたインバウンドが増加している。



3. 事業者等の声

古民家カフェ 晴ノ舎

◆ 開業の背景等

- ・平成27年に高橋家が登録有形文化財の旧住宅を檜原村に寄贈。村では、地域交流や観光拠点の場として整備を進めてきた。
- ・旧住宅の運営管理を行う指定管理者の募集を知り応募、縁あって「古民家カフェ晴ノ舎」をオープン。

◆ 開業から足元までの状況

- ・開業時はコロナ禍で、都会から田舎の空気を吸いに来る人が多く、客足は好調に推移した。
- ・コロナ5類移行後は、遠方へ旅行に行く人が多く客足が減少したものの、夏になりキャンプ場に遊びに来る人が増えたことで、当カフェへの客足も戻ってきた。

◆ 雇用等について

- ・村の人を数名雇用しており、カフェで使用している野菜や果物は地元の人たちが育ててくれたもの。また、スタッフの衣装は地域の染物作家による制作。
- ・村に移住し地域に溶け込むなかで、村の人々と交流しながら業務を行っている。

◆ 檜原村の変化

- ・村に移住してきた人や村に所縁を持つ人が中心となり、カフェやシェアハウス、グランピング施設など新たな店舗や施設ができていますと実感。



東京×山リバーサイドカフェ

◆ 開業の背景等

- ・「東京マウンテン®」というブランドで不動産会社を経営。檜原村オフィス周辺は美しい自然環境に囲まれており、村のことをより知っていただくためのプロモーションを兼ねてカフェを併設することにした。
- ・カフェは金・土・日の3日間営業しており、週末には観光客でにぎわう。

◆ 開業から足元までの状況

- ・開業後各種メディアに取り上げられるなど、順調に成長を継続してきている。2023年コロナ禍明け以降は、客足に弾みがついてきた。
- ・都内（港区・世田谷区）や近隣のあきる野市に加え、横浜・川崎からのお客さんも多くみられる。

◆ 雇用等について

- ・夏場などピークの時期には休憩スペースを増設しており、村内の人をアルバイトとして雇用している。
- ・地産地消を心掛けており、カフェで使用しているはちみつは地元の養蜂農家から入荷している。

◆ 檜原村の変化

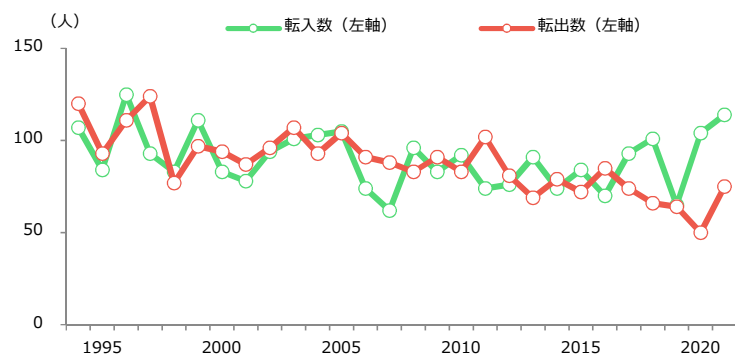
- ・都心から目的をもって檜原村へ移住してきた人達が新しい事業を積極的に推進しており、檜原村の持つポテンシャルをデコに村内に観光客や雇用を生み出している。
- ・不動産会社では空き家の仲介も行っており、ここ数年で子育て世代から団塊世代まで5家族が移住。いずれも移住前は都内または神奈川県内在住。



4. 檜原村観光協会の声

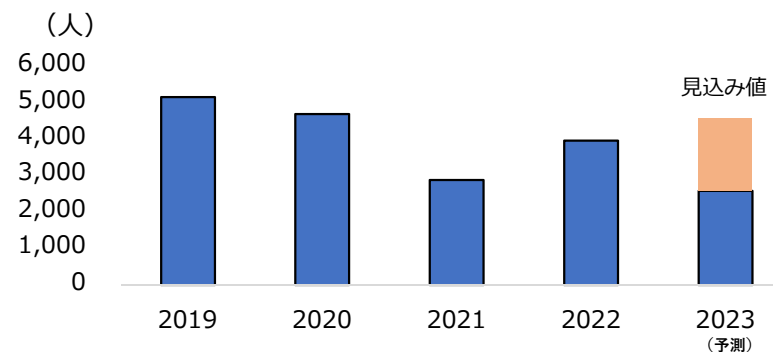
- コロナ禍を契機に、檜原村の自然豊かな所や子育て支援に手厚く、のびのびと子育て出来る環境が支持され転入者が増えてきている（図1）。
- 転入者や村に所縁のある人が中心となり、新たに個人カフェやキャンプ施設などを開業。村でも若い世代を増やしていくための取組として、「檜原 森のおもちゃ美術館」と「ひのはらファクトリー」を開業して雇用創出に取り組んでいる。
- 観光協会の来館者数も回復してきており（図2）、最近ではアジアを中心としたインバウンドも見受けられる。
- 新たに村に入ってきた人達による開業と村の取組みにより、檜原村の経済が活性化していくことが期待できる。

◆（図1）（檜原村）転入者数と転出者数の推移



出所：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査、RESAS」

◆（図2）檜原村地域交流センター来館者数の推移（年度）



※2023年度は4月～10月までの来館者数

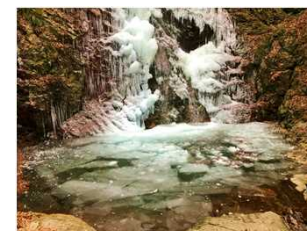
出所：檜原村観光協会「檜原村地域交流センター来館者数」



5. まとめ

- 今回のレポートでは、新たに村に移住した人や村に戻ってきた人、村と関わりのある人達が事業者となり、村を盛り上げるために施設を開業・運営する動きがみられた。雇用面では、村内の人を積極的に雇用しており、生産面でも地元産材を活用するなど、村全体の産業に一役も二役もかかっていることが分かった。
- 檜原村の観光スポットといえば滝めぐりや登山といったアウトドアがこれまでの中心であったが、先に取り上げた「檜原 森のおもちゃ美術館」や「ひのはらファクトリー」など新たな施設がオープンしたことで、檜原村を訪れる観光客の客層に広がりが見られるとともに、檜原村の知名度向上にはカフェやキャンプ施設によるSNS投稿が契機となって、新たな観光客の開拓に成功していることも聞き取れた。
- 課題としては、路線バスの本数が少ないといった「交通の便」の問題や観光客の泊まれる場所が少ないといった「宿泊施設」の問題に加え、転入者が増えているものの住宅が不足している「空き家不足」の問題について声が聞かれた。これらの問題は、一朝一夕に解決が難しい問題であるが、村、事業者そして地域住民が一体となり、檜原村の目指すべき将来像の実現に向けた話し合いや各種取組みが期待される。
- 最後に、ICT技術の進展により働き方が多様化していく中において、自然環境の良さや子育てのしやすさに加え、週末にはアウトドアを楽しむ場として、都心からも通うことが出来る檜原村の良さが再認識され、移住希望者が増加し村の人口増加に繋がっていくことを期待しつつ、東京財務事務所としても変わっていく檜原村を応援していきたい。

(注) 本レポートの内容は、筆者の個人的見解である。(関東財務局 東京財務事務所 財務課)



〈檜原村の四季〉

出所：檜原村観光協会HP

ひのはらむら
檜原村へのアクセス



- ・電車をご利用の方
東京 JR中央線 約50分 → **立川** JR青梅線 約12分 → **榑島** JR五日市線 約20分 → **武蔵五日市** バス 約20分 → **檜原村**
地域交流センター (社) 檜原村観光協会
- ・中央自動車道をご利用の方
上野原I.C … 約30分、**八王子I.C** 約50分
- ・圏央道をご利用の方
あきる野I.C … 約30分、**日の出I.C** … 約30分

出所：檜原村観光協会